

令和3年度

不動中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

一人一人が輝き、自尊感情を高めるために、主体的・対話的な深い学びを実現するための授業改善から、確かな学力を育成する。

- ①「基礎的・基本的な知識・技能の定着」
- ②「家庭学習習慣の確立」

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 篠原 明子	委員	吉成昭彦(校長)	岩佐隆義(教頭)
		吉田則子(教務・2年主任)	清水英伸(3年主任)
		佐藤康徳(1年主任)	矢部恵子(特別支援教育コーディネーター)

校長

吉成 昭彦

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員による授業改善のための振り返る等、さまざまな機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○「漢字を読む」「式の計算」等の基礎的な内容は成果を上げており、朝学習やモジュール学習等で、基礎的な知識技能を上げようと努力できる。 ●各教科、基礎的・基本的な知識技能が不十分なまま、授業を受ける生徒もいる。	・朝学習や家庭学習で、目標を持って復習に取り組むことができる。 ・言葉に親しみ、自分の考えを整理して記述したり発表したりすることができる。	①スモールステップでの小テストの実施と小テストに向けての各自への支援と事後の振り返り ②授業ノートの確認とノート指導の実践 ③モジュール学習を取り入れた朝学習の実施			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業ノートを真面目にとり、学習課題について、知識技能を活用しようとまじめに取り組むことができる。 ●学習課題に対して、思考・判断して、筋道をたてて文章を書く力や表現することに苦手意識を持つ生徒が多い。	・学習課題に対して、知識技能を活用させながら、粘り強く考え、根拠を示しながら、自分の考えを表現することができる。	①アクティブラーニングの手法を取り入れた授業を行う中で、自力解決の時間の確保や話し合い、発表の場を設ける。 ②各教科において、文章を書く機会を増やし、条件にあった表現力を身につけさせる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○集団生活のルールを守って生活できる。朝学習に静かに取り組み、チャイムで授業を開始することができる。 ●分からないことをそのままにする傾向があり、宿題等、提出物の締切を守れない生徒がいる。また、家庭学習において、主体的・継続的な習慣が確立されていない。	・チャイムで授業が開始でき、授業には準備を整え、目的意識を持って取り組むことができる。 ・家庭学習の方法を身につけ、課題や自主学習に積極的に取り組むことができる。	①学習のめあてを、授業の始めに明示するとともに、学習のふりかえりを全教科で実践し、学習課題の自覚化をさせる。 ②各教室に宿題一覧表を置き、教員と生徒が情報を共有しながら、目的意識を持った家庭学習につなげる。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

